

県立つくしが丘病院が 新しくなりました

本県唯一の県立精神病院つくしが丘病院は、施設の老朽化や入院患者さんの療養環境改善のため、これまで、改築・改修工事を行ってきましたが、9月24日から改築棟での外来受診を開始し、全面オープンしました。

新しい建物は、周囲の自然と調和したデザインです。入院病棟の大部屋を廃止し、個室・保護室を大幅に増やしました。さらには、1床当たりの床面積を広くするなど入院患者の療養環境の改善に重点を置きました。

また、外来部門は、明るく開放的なイメージのエントランスホールを設け、より親しみやすい病院づくりを心がけました。



今後、新たな医療機能を持った病院として、より専門的な医療を担っていきます。

- ① 医師・看護師等の集中的なチーム治療により、早期の退院を目指す精神科急性期治療病棟の設置
- ② 不登校・ひきこもり・家庭内暴力などに対応する児童青年期医療や特に配慮が必要な患者さんへの医療実施
- ③ 医療連携室を中心とした他医療機関・施設等と連携
- ④ 看護師等による訪問看護の実施により患者さんの社会復帰支援



県立つくしが丘病院 ☎017-787-2121

県では、県民のチャレンジ精神あふれる「生業※」づくりを応援しています。

Vol.2 東青地域編 生業づくりへの チャレンジ



ソバと県産素材に
こだわった
ブレンド茶の開発

ペットボトルのラベルデザインは、
実際のもとは異なることがあります。

青森県基本計画

未来への挑戦

情熱あふれるふるさと青森づくり

※生業(なりわい)とは、本来、「生計を立てていくための仕事」という意味ですが、基本計画では、「県民一人ひとりの経済的基盤」という新たな意味を加え、生業(なりわい)づくりにチャレンジしていくこととしています。

青森産のお茶？

「青森産のお茶」ときくと、驚く方が多いかもしれませんが、でも今、東青地域でそんなプロジェクトが着々と進められています。

東青地域はソバの産地

東青地域はソバの作付けが盛んで、県内一の作付面積を誇っています。こうした産地のメリットを生かし、現在、生産から流通、加工、販売に携わる地域内の方々が連携して、東青産の「あおもり海道そば」を、東北新幹線新青森駅開業に向けて積極的にPRしています。

また、農家等で組織された地域の地産地消団体では、会員が生産した農産物の付加価値を高めるため、今年度、原材料取扱者、販売関係者、県産業技術センター等との連携・協力により、ソバをベースとしたブレンド茶の開発を進めており、東青地域県民局ではその取り組みを積極的に支援しています。

県内では、りんごジュースは生産されていますが、茶系飲料はほとんどないため、ブレンド茶を商品化することで地産地消に結びつけたいと、関係者一丸となつてがんばっています。

40市町村の産品をブレンド

開発に当たり、ソバをベースにしなが、ブレンドする原材料やその配合割合を変えた300パターン以上の試作を繰り返しました。また、市場分析や消費者の嗜好について検討した結果、リンゴやカシス、ハトムギなど県内の産品40種類の素材を使ったブレンド茶が完成し、今秋発売をめざしています。



試飲会の風景

地産地消で「生業」づくり

地元で生産されるソバを用いたブレンド茶の商品化は、地域にある資源を見つめ直し、その活用に光を当て、「食」の創出と発信をめざすとともに、生産から加工、販売に携わる多くの方々に関係する新たな生業(なりわい)づくりです。県民の皆さんも店頭でこのお茶を見かけたら、是非一度お試しください。